



生協さえき病院通信 特別号

2016年 月号 発行責任 広報委員会
 広島市佐伯区八幡東3丁目11-29
 TEL082-926-4511 FAX082-926-4522

【さえき病院熊本地震支援 第1陣】

4月21日午後2時、熊本地震支援の為、さえき病院からの第1陣が熊本へ向けて出発しました。

出発前に1階ロビーにて壮行会を行いました。

院長の激励のあと決意表明をして車に乗り込み、皆で見送りました。

私は、菊陽病院へ支援に入りました。外観は損傷がなくても、中に入ると亀裂が多く修繕に1億かかると聞きました。職員も4割が車中生活で疲労が蓄積していると言われていました。余震の恐怖で屋内に入れない方も多くおられました。情報手段や交通手段の少ない高齢者に物資の情報や避難所の状況等が伝わりにくく、生活格差が出ている状況です。メンタルヘルス対策の必要性も感じました。職員の奥さんも小さい子供さんと避難所暮らしで疲弊し入院されたと聞きました。支援者の1人1人の力は少なくても、多くの支援者が輪を作り今後も継続して支援することで支えになっていくと思います。支援の形は様々なので、出来ることをしていきましょう。

(通所リハ科看護師 野田)

私は広島中央保健からの支援第2陣として4/21~4/24の日程で熊本のくわみず病院へ行きました。

現地での活動は22.23日の2日間で、地域訪問と避難所支援を行いました。くわみず病院から車で30分ほどの益城町の友の会会員さん宅を訪問しましたがすでに避難されお留守がほとんどでした。道中、あちこちから「看護師さんですか？」と声がかかり、崩れた民家を分け入った先の無事な家におられる方々の健康相談、外傷処置なども行いました。崩壊した町の様子に心が痛みました。また、すべての被災者に十分な対応ができたとは言い難く、いまだあの方たちの様子が気になります。支援に送り出してくれた職場に感謝しつつ、今後も何らかの形で関わりができればと思います。(3階病棟看護師 浜田)



【さえき 熊本地震支援第2陣】

私は広島中央保健からの第4陣として、4月27日～4月30日の3泊4日で熊本へ支援に行きました。活動としては28日・29日の2日間でした。

支援場所は315床ある精神科の菊陽病院で、1日目は益城町視察と病棟支援（食事介助、清拭、オムツ交換）をして、2日目は朝～夕方まで西原村の地域訪問（聞き取り調査）と物資提供、夜は大津体育館の外で車中泊されている方の聞き取り調査と物資提供をしました。30日は菊陽病院内の被災状況を見学し、広島に帰って来ました。

5陣ともなると支援物資の不足は感じませんでしたが、西原村の方々が口を揃えて言われていたのが、「水が出ないのが辛い。飲み水は配給されるが、トイレも流せない、お風呂にも入れない、行政の介入もまだで、この先どうなるのか不安だ。メディアで流されている場所は優遇された感がある」とも言われていました。私も被災者でこう格差があるのは如何なものかなと疑問に感じました。こうした中での民医連の活動は微力ながらも被災者の方々のお力になれたなら幸いです。

まだまだ復興には時間がかかると思いますが、これからも陰ながらお手伝いして行きたいと思いました。

看護師人生で初めての災害支援へ参加し、貴重な体験が出来た事、送り出してくれた職場の皆様へ感謝しています。
(3階病棟看護師 田中)

4月27日～4月30日の4日間熊本地震震災支援に行きました。

くわみず病院の支援でしたが夜勤支援もされていました。午前中は避難所訪問をし午後からは安否確認のため地域訪問を行いました。健軍神社から益城町にかけての建物の倒壊が多いと聴きましたが、普通に建っているようなマンションでも倒壊の恐れがある赤紙が貼ってありました。それでもそこに住んでいる方が居られたり、混乱している様子や不安とかが、皆さんから伝わってきました。外から見ただけではわかりませんが、中は散乱していて貴重品も持ち出せない状態で電気も点けっぱなしの家もあり、防犯の為なのかそのまま非難されたのか中で倒れているのではないかなど安否確認も難しかったです。震災後2週間目に支援に来たのですが、だんだん疲弊されている避難所の方々もありました。市役所の職員も避難所の管理をされていますが、避難人数の把握も難しそうでした。現地の職員は、勤務と支援者のオリエンテーションのため夜中までの資料作りをして車中泊の方もおられ、何ともいたたまれない気持ちになりました。熊本の皆さんがとても親切にしてくださって返って申し訳ないなと感じました。
(4階病棟看護師 桑名)



【さえき熊本地震支援 第3陣】

4月29日～5月2日まで第5陣として支援に行きました。

4月29日に米の山病院につき、翌日熊本の菊陽病院へ、オリエンテーションを受け、益城町の視察をしました。まだライフラインが全面復旧していません。そのあと、地域訪問に出ました。道路・歩道にひび割れ多数あり、合計42件聞き取りを行い、非常食や体拭き、お尻拭き、水などの配布。幼児のPTSD様の症状が心配でした。19時～車中泊の方の訪問へ、エコノミー症候群予防のチラシ、弾性ストッキング、非常食・野菜ジュース、タオルなど配布、その後報告会。翌日も菊陽周辺へ地域訪問、合計34件。17時帰院し、報告。翌日菊陽病院から米の山病院へ、そこで解散式を行い帰宅の途へ着きました。

2日間だけの支援でしたが、地域訪問する中で皆さんが協力し合っていること、病院のスタッフが顔を見に来てくれたことや他県からの支援スタッフのいることなど知って嬉しいと言ってくくださる方もいて、少しは役に立つことが出来たかなと思いました。スタッフの方や地域の方みなさんが、被災されて大変な中、私達に対しても気遣いをして貰い、ありがとうございました。これからもいろんな方面からの支援が出来ればいいと思います。

(4階病棟看護師 平嶋)

【さえき熊本地震支援 第4陣】

私は第7陣の支援として5/1～5/4までくわみず病院への派遣となりました。

くわみずでは外来業務を担当し、救急車受け入れなど当直も行いました。避難所からの患者様が多く不眠・DVT(深部静脈血栓症)疑いなど、被災地での看護を行っているのだと実感しました。また支援病院の生活に置いて、インスタントや冷えた食事・シャワーだけの保清など経験し、普段当たり前と与えられているものがどんなにありがたいことなのかを実感することもできました。他院所の方々とも交流し意見交換することで自身の学びが多くあり、大変貴重な体験となりました。快く送り出してくれたスタッフの皆様、大変な状況の中親切に対応して下さいました。現地の皆様に感謝します。

(3階病棟看護師 城戸)



